



教育担当副学長
川上 博
かわかみ ひろし



これからの 知識基盤社会では あなたの学びの 質が問われます

入学おめでとうございます

徳島大学に入学されたみなさん、ご入学おめでとうございます。私たち教職員一同は、みなさんを心から歓迎し、これからの大学での生活を共に過ごせることを楽しみにしております。まずは一日も早く、余裕の持てるキャンパスライフを築いてほしいと思います。さて、大学への入学は、大多数のみなさんにとって10代後半から20代前半という人生で最も変化の大きい時期の最初のイベントでもあります。生活環境と同時に、みなさんのまわりの友達関係も再構築がなされることでしょうか。変化のときは、不安がつきものです。がそれは同時に成長の大きいことを意味しています。迷いを溜め込まないで、気軽にまわりの先生や事務職員に相談して下さい。それでは以下、大学での勉強、特に全学共通教育



徳島大学長
青野 敏博
あおの としひろ

知を創り、地域に生き、 世界にはばたく 徳島大学

徳島大学へようこそ

新入生の諸君、入学おめでとうございます。晴れて徳島大学生となられ、新しい学生生活への期待も大きく膨らんでいることでしょう。御家族の皆様にもお子様の巣立ちに心からお慶びを申し上げます。私達教職員一同揃って新入生の皆様を歓迎致します。これからの4年間ないし6年間の徳島大学での学生生活において一般教養を学び、人間性を高め、真の友人を作り、青春を謳歌し、将来の職業の基礎となる専門的な知識技能を修得していただきたいと願っています。

徳島大学は、今や世界のトップレベルの大学としての評価を受け、さらにそのレベル

を向上させつつあります。たとえば、平成15年には文部科学省の「21世紀COE (Center of Excellence) 卓越した研究教育拠点プログラム」に2つの拠点が選ばれました。また文部科学省の大学教育改革支援事業には平成15年度以降毎年採択され、特に平成18年度には6題採択という87国立大学中2位の成績を得ています。

このように研究面、教育面ともに我が国ではモデル大学としての地歩を固めています。

法人化と徳島大学

徳島大学は昭和24年に設立された国立大学ですが、平成16年4月から国立大学法人として再出発しました。

法人化すると、6年間の中期目標、中期計画を立て、それに従って自主的な運営を行い、毎年国立大学法人評価委員会により評価を受け、6年に一度は中期目標の達成度について大学評価・学位授与機構により教育、研究面を評価されます。

平成19年度および20年度とあいついで文部科学省から共通教育講義棟を改修する予算が措置されました。今春の新入生の皆様には改装なった

新しい講義棟で快適な環境のもと、授業を受けて頂くことになりました。

徳島大学の目指すもの

徳島大学は中期目標・中期計画を実施中の6年間に行うべき基本構想として3本の柱を立てました。

1 特色ある教育システムの構築

まず、進取の気風、人間性そして専門能力を養う教育プログラムの策定です。学生の個性に合わせた能力開発の視点に立ち、進学と就職を考慮した専門基礎教育の充実を図ります。また高度専門職の養成と研究者の輩出を目指して大学院教育の改革を行います。そのためには不断のファカルティ・ディベロップメント(教育者の資質向上)を推進し、学生とともに教育の改革を目指します。

2 独創的で世界トップレベルの研究拠点の構築

蔵本地区では医学、歯学、薬学および栄養学研究科の統合大学院「大学院ヘルスバイオサイエンス研究部」を平成16年4月に設置し、組織横断

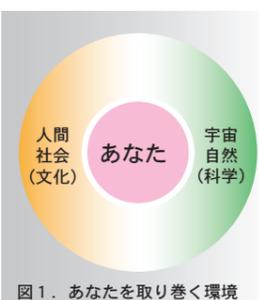


図1. あなたを取り巻く環境

学(に囲まれて生きています)です(図1参照)。まずは、この環境を知る地盤固めが必要です。これが全学共通教育です。

徳島大学では、前期3科目とその実践科目に対応させて、基盤形成科目群②と社会性形成科目群③を用意しています。【図2参照】現代人の共通語として、母国語である日本語、世界の共通語である英語、その他の外国語、それにコンピュータ(機械)と話をするための情報リテラシー、さらに情報交換を实践する科目として、ウエルネス、共創型科目、ヒューマンコミュニケーション等の科目を開講しています。

これらの基盤の上に、後期4科目に対応する文化や科学を学ぶのが教養科目群(歴史と文化、人間と生命、生活と社会、自然と技術)④です。なお、大学入門科目群①と基礎科目群⑤は、高校での学習科目・全学共通科目・専門科目⑥⑦をうまく繋ぐための接続科目です。

具体的には履修科目を決める際には、かなりの自由度があり、

的に研究や教育を行うことが可能になりました。疾患酵素学研究センターや疾患ゲノム研究センターとも協働して独創的な研究が展開されることが期待されます。

平成15年7月には21世紀COEプログラムが2拠点採択されており、本学は世界のトップレベルの研究拠点であることが実証されています。

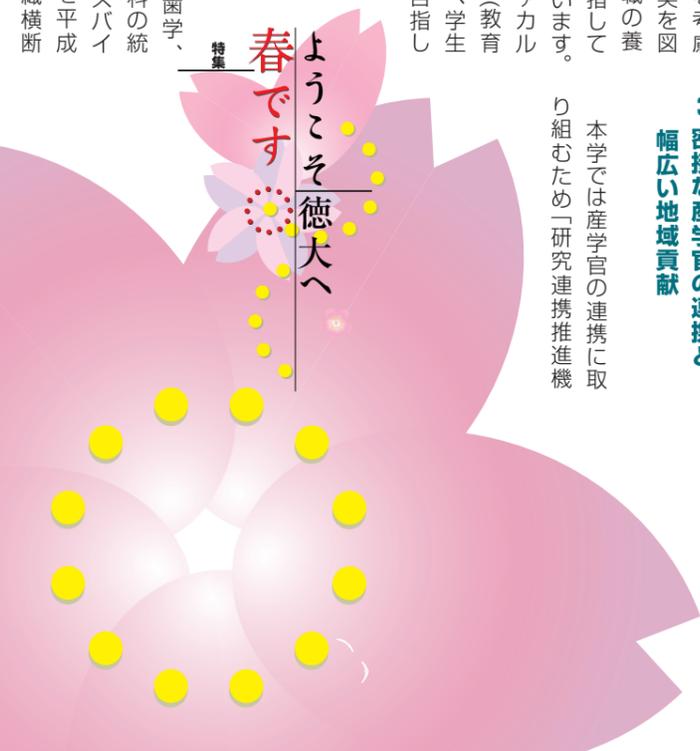
一方、常三島地区でも平成18年4月に工学部の大学院を部局化した「大学院ソシオテクノサイエンス研究部」が設置され、更なる研究、教育の発展が期待されます。

3 密接な産学官の連携と幅広い地域貢献

本学では産学官の連携に取り組むため「研究連携推進機

構」を立ち上げ、また幅広い地域貢献に資するために「社会連携推進機構」を設置し、活動を行っています。前者は知的財産の保護と産業界への技術移転を推進し、後者は地域社会の総合支援を行っています。このように社会貢献の面で、徳島大学は開かれた大学として地域とともに歩んでいます。

諸君はこのような大学で学ぶことを誇りに思い、健康に留意し、有意義な学生生活を送られ、幅広い人間性を高め、夢と希望に向けてチャレンジされるよう願っています。



ようこそ徳大へ
春です

選択にとまどうかも知れません。この「迷い」にどう対応するか、実は大学での学びの大切な事柄です。迷いは、あなた自身既にアクティブに学習計画を始めている証拠だからです。本学のeシラバスに付属する検索・学習経路表示ソフトウェア「F注」が役に立つかも知れません。ぜひ使ってみてください。

学びの内容ではなく、学びへのアプローチの仕方が高校と大学では違ってくることに気づいていただきたいと思います。しかも、たとえ学習パターンが同じでも、それを實現する方法は、みなさん一人ひとりスタイルが異なります。ですので、時間は十分あります。自分にあった学習のスタイルをあせらずに見つけていただきたいと思えます。

進取の気風をあなたの学習スタイルに「教えられる」から「自ら学ぶ」入り

本学の教育理念にある「進取の気風」で求められている学習パターンは、人から言われなくとも自分から能動的に学習するという能動的学習パターンです。あらかじめ用意された教材を教えられるがままに記憶するといった受動的な学習では、教えられる量に比例した知識の獲得しかありません。他方、能動的学習では教えられるなくとも自発的に自分で疑問を解決し、知識を獲得してゆくことができます。つまり、学びの曲線は指数関数的に発展していくのです。したがって、能動的学習パターンは、知識基盤社会では、状況の変化に対応できる有用な一つの学びのパターンとして、とがでるべきです。

全学共通教育

学部専門教育

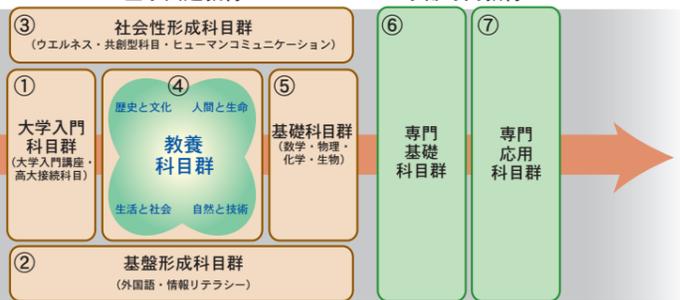


図2 徳島大学の学部教育科目群

【注1】 Learning Path Finder
http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/dist/PLP/

在学生からの 歓迎の言葉

薬学部



薬学部 製薬化学科4年次
丸木 あゆみ まるき あゆみ

新入生のみなさんへ
おめでとうございます。御入学から4または6年間、一緒に励むもよし、部活やサークルに燃えるもよし、バイトで稼ぎまくるもよし、留学や旅行、はたまた遊び倒すのも良いかと思えます。欲しいものは自分で調達し、卒業後のキャリアの残りなごまかさないでください。



総合科学部人間社会学科4年次
岡林 恵以子 おかばやし けいこ

総合科学部

御入学おめでとうございます！

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。これから始まる大学生活に大きな希望と不安を持っていることでしょう。充実した大学生活を送るために、多くの人やものとの出会うことをお勧めしたいと思います。いろんな経験をして、たくさんの方と学んでいってください。部活でも、アルバイトでも、勉強や趣味でも、興味あることを見つけて、それに向かって一生懸命になることで、自分自身大きく成長できると思います。自由な大学生活だからこそ、毎日を楽しんでください。



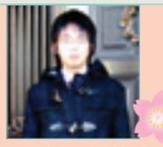
工学部知能情報工学科2年次
飯田 裕介 いいた ゆうすけ

工学部

最高の大学生活を

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私もほんの1年前は皆さんと同じ新入生でした。この1年を振り返ってみると、本当にあつこいという間で、今までの人生のうちこれほど充実した1年はなかったように思います。徳島大学には、創成学習開発センターという学生の自主活動を支援してくれる施設があり、私はそこで幼い頃から「ロボコンに出場する」という夢を全力で追いかけています。今しかできないこと、本当にやりたいことに打ち込める充実感というのはとても素晴らしいものです。ですから、ぜひ皆さんも大学で打ち込めることを見つけて、大学生活を最高のものにしてください！！

医学部



医学部 医学科4年次
武知 克弥 たけち かつや

最高の学生生活を送ろう！
新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。皆さんは、これから始まる大学生活に期待と同時に、大きな不安を抱えているのではないのでしょうか。しかしこれからは、ずっと付き合っていく友人を見つけ、充実した大学生活を送ってみたいと思います。そのため、部活動に参加することをぜひお勧めします。部活動に参加すれば他学部の友人はもちろんのこと、他大学の友人もできるでしょう。医学科という勉強のイメージが強く、部活動に参加している人は少ないのではないかと感じる人もいますが、クラスの多くの人が何らかの部活動に所属して、勉強だけでなく、運動も頑張っています。私自身も硬式野球部に所属し、日々汗を流しています。大学では自由な時間が増えるかと思えます。その時間を有意義に使い、充実した生活を送れるよう心がけてください。



歯学部 歯学科 5年次
大西 信亮 おおし のぶあき

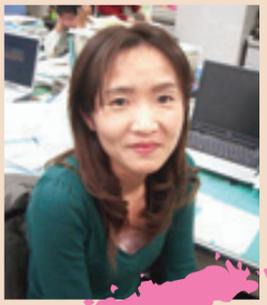
歯学部

ようこそ徳島へ

新入生のみなさん、御入学おめでとうございます。大学生活はバイトをしたり、部活やサークルをしたり、時には日中寝てみたりとやりたいことは大抵できます。まずは色々なことにチャレンジしてみてください。僕がおすすめるのは部活やサークルに入ること、活やサークルに入ると、先輩や後輩など人間関係が広がります。また、バイトは空いた時間を使えるし、お金はもらえるしと二石二鳥です。これから始まる大学生活を自分なりに精一杯、楽しく過ごしてください。

私達も応援しています

学務課教育支援係
上岡 麻衣子 かみおか まいこ



気軽に学務課へ

『図書館ってどんなところ?』

附属図書館

田中 孝次 たなか たかつぐ



● **利用案内サービス**
学生の皆さんに図書館の効率的な使い方をご案内する図書館案内ツアーや、レポート・論文作成の手助けになる各種講習会を実施しています。また、図書館ホームページや、メールマガジン「ただち」で役立つ情報を広く発信していますので、ぜひご覧ください。
図書館ホームページ
<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/>
メールマガジン
<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/m-mag/index.html>

● **図書館の施設**
「図書館」と聞くと、多くの方は「本がいっぱいあるところ」「静かに勉強するところ」というイメージを持っているのではないのでしょうか。それは正しいですが、大学図書館は、皆さんの勉学をサポートするための様々な施設やサービスを用意しています。その一部をご紹介します。



● **図書館の施設**
図書館と言えば本ですが、ここ徳大の図書館



1、2年生で主に勉強する科目に「全学共通教育科目」があります。たくさんある科目の中から、学びたいことを自分で選んで、Webを使って履修登録します。中には申し込みが多くて抽選になる場合もあり、調整が必要になります。このような抽選作業をはじめ履修に関するさまざまなサポートをするのが学務課教育支援係の仕事です。学生の皆さんにとって履修登録は初めての経験で「まよっことも多い」と思います。わからない時は遠慮なく相談にきてください。高校とは違って大学では、毎朝先生が教室にきて、今日の予定を教えてください。ということはありません。大学にきたら掲示板を必ず見て、急な教室変更はないかなど確認してほしいと思います。掲示板には教室変更の他に教員からのお知らせや試験に関することなど、大事なお知らせや情報が掲示してあります。1日2回は見るようにしてください。全学共通教育のホームページも是非活用してください。成績や休講情報など、家のパソコンからでも確認することができます。

● **全学共通教育センターホームページ**
<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/ceducom/>
● **休講情報(携帯向け)**
<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/ceducom/mobile.cgi>

楽しんでみませんか？身近な徳島

徳島は淡路島を介した水路・陸路を通じて大阪、京都と古くから交流があり、歴史的に由緒ある土地です。そのため徳島市内にもたくさんさんの史跡があり、文化を大切にしている風土の土壌となっています。また徳島はきれいな海、山、川にめぐまれていて、少し散歩すれば特上の自然を味わうことができます。徳島大学へ入学したみなさん、徳島発見の小さな旅に出てみましょう！

徳島中央公園

第三島キャンパスのすぐ南西、徳島駅との間にあるのが徳島中央公園です。本号が出るころには、ちょうど満開の桜で覆われているのではないのでしょうか。地元の人からは「城山」とよばれて親しまれているように、かつての蜂須賀家の居城が、明治時代の終わりが、日露戦争の戦勝を記念して整備され公園になりました。

城の建物は明治初期に取り壊され、その姿を見ることはもうできませんが、公園内にある徳島城博物館には阿波17万6千石の栄華を示す貴重な資料が展示されています。博物館の表御殿庭園(おもてごんていえん)は国指定の名勝です。その表御殿庭園の庭石や城の石垣に、青みがかった石が数多く使われているのにお気づきでしょうか。「一般に「青石」

阿波おどり

たとえば東京で「徳島大学です」といって、「じゃあ、阿波おどりやるんでしょっつ」といって聞かれますよ。残念ながら徳島大学には「阿波おどり学科」はありませんし、すべての徳島大学生がおどるわけではありませんが、阿波おどりが徳島の代名詞になっている良い例でしょう。阿波おどりは毎年8月12日～15日の4日間、徳島市内を中心として行われます。この期間中は徳島市の人口の何倍も観光客が押しよせて、その様子が全国ネットのテレビで生中継されます。阿波おどりはたいへん歴史ある行事で16世紀に徳島をおさめた蜂須賀藩の祝賀行事に由来するといわれています。阿波おどりのグループは「連」とよばれていて、毎年5月の連休を過ぎると、夕方から夜9時頃まで、市

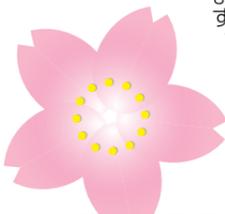


徳島市内演舞場での阿波おどり(徳島県観光協会提供)

とよばれる緑泥片岩(りよくていへんがん)で、剣山系で多く出土します。徳島の名物といってもよいでしょう。吉野川の第十堰に敷き詰められているほか、大学構内でも目にするることができます。

築城がなされたほどの要衝だからでしょうか、中央公園のあたりには先史時代から人が住んでいたようで、縄文時代の貝塚が残っています。この発掘調査をおこなったのは、徳島が生んだ偉大な人類学者、鳥居龍藏(1870～1953)です。

全国的に大学の郊外移転が進み、かつての城に隣接する大学はすいぶん少なくなりました。そのようななか、徳島大学は貴重な口ケーションを保っています。



表御殿庭園。中央奥に見える石橋(青石)は長さが10メートルを超える。奥はかつて天守が置かれていた城山。右が徳島城博物館

眉山と吉野川

徳島大学へ来る時に必ず目にするもの、それが市内中央にそびえる眉山(びざん)と四国三郎とよばれる大河、吉野川でしょう。眉山は高さが200メートルほどの小山ですが、遠くから見るとちょうど眉山の形に見えるためこの名前がつけられたといわれています。眉山は徳島市の象徴です。徳島駅から数分歩くとロープウェイがあり、楽々と展望台に行けます。そこからのながめはずばらしく、青々と流れる吉野川の河口部と紀伊水道、さらにその先には淡路島がのぞめます。特におすすめなのは展望台からみる徳島の夜景です。星のようにきらめく街のあたりとちかちかと光る灯台のともじび。絶好のデートコースです。



吉野川橋と眉山(徳島県観光協会提供)



大塚国際美術館システィーナ・ホール(大塚国際美術館提供)

内の公園でカネやタイコのが鳴りひびきます。これはいろいろな連が8月の本番に向けて練習をしているからです。徳島大学にも工学部の「雷連」(電気電子工学科)、医学部の「たけのこ連」(やぶの手前など)、ユニークな名前をもつ連がたくさんあります。是非、身近な連に所属して徳島の夏を謳歌して下さい。

大塚国際美術館

ヨーロッパに行かないでも世界的に有名な絵画を鑑賞できる、そんな便利でしかも西歐文化の香を感じることが出来る施設が大塚国際美術館です。この美術館の特徴はすべての絵画が陶板に原寸大で再現されていることで、陶板名画美術館ともよばれています。陶板名

画という物足らなさを感ずるかも知れませんが、実際に行くと作品に直面してみるとそのようなイメージはぶきとびます。原画の色彩を再現しようとする陶板制作者のこだわりとこだわった職人気質による作品は見事というしかなく、画集で見ただけと異なる名画の原作にそのまま接している心地がします。圧巻なのは古代遺跡や教会などの壁画を空間ごとそのまま再現した展示です。開館10周年を迎え、天井画を完全再現した「システィーナ・ホール」では、壮大なルネサンスの美の世界が体感でき、厳肅な雰囲気の中でひとつひとつの絵を細かく鑑賞すると時間がたつのを忘れます。天井部のへりは曲面になっていますが、かたい陶板を一定の曲率で曲げる技術は世界でも類がなく、その行程



大鳴門橋と渦潮(徳島県観光協会提供)

鳴門の渦潮

徳島で阿波おどりとならんで有名なのは鳴門の渦潮です。徳島市の北側に位置する鳴門市孫崎と淡路島にはさまれた鳴門海峡は、西に瀬戸内海、東に太平洋へつながり、両者の潮位の差により時速20キロメートルものけいしい海流が生じます。鳴門海峡の深さは100メートルに達し、微妙な地形と風の相乗作用で大きな渦が発生します。渦時には20メートルもの大きさになり、昔から鳴門の渦潮として全国に知られています。うどんやラーメンにそえられている鳴門巻きは鳴門の渦潮が起源とされています。海流は、瀬戸内海側から流

れる東向きと太平洋側から流れる西向き(日ごとに変化する)ため、渦潮の発生(日ごと)です。その間、東西の潮位が同じになる時間帯がありますがその時は渦潮を見ることはできません。渦潮を楽しむには、観潮船とよばれる船と、「渦の道」を利用する方法とがあります。轟音としぶきを体験しながら渦潮を見るには観潮船を利用するのがよいでしょう。渦の道は、鳴門海峡をひとまたぎする大鳴門橋の下部(鉄道を通す予定だったが中止された)を使用した廊下のような施設で、陸から歩いて渦の真上に行けます。廊下の下部にはところどころ強化ガラスの窓があり、自分の足からはるか下に大きな渦や激しい海流にさらされて進む大きな貨物船をじっくり見ることが出来ます。高所恐怖症の人はガラス窓にのれないようです。渦の道を出て少し歩くと展望台があります。ソフトクリームをのめながら大鳴門橋、渦潮、淡路島の光景を楽しむのも興味が湧くでしょう。日によって渦が見られる時間が異なります。潮見表で時間を確認して出かけてみましょう。

観潮船 <http://www.uzusio.com/>

渦が見られる時間 <http://www.uzunomichi.jp/>



